

群馬県立吾妻特別支援学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(様式)

羅針盤				方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	吾妻サポート通信を、年間3回以上発行し、学校の地域支援についての取り組みについて、情報提供を行う。	地域支援部	吾妻サポート通信は、特別支援教育に関する知識理解を中心に紹介し、地域のニーズに合った情報を提供する。	83.3%	/	B	児童生徒の実態に応じた学びの場についての情報提供をサポート通信を通して行った。地域の学校等の、就学基準等の理解につながってきていると思われる。	・あがとく通信等の情報提供が適切に実行されている。 ・紙面及び校舎内に様々な情報が配置されている。学校の様子を具体的に伝えている。	今後も地域の特別支援教育に関するニーズを把握し、必要な情報提供を行っていく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	交流及び共同学習について、参加を希望した80%以上の保護者が子どもにとって有用であると感じている。	教務部	終了時などに簡単なアンケートをとる。アンケートにいただいた意見は、今後の実践にいかす。	94.4%	76.0%	B	自己評価と外部アンケートにおける数値において開きが見られる。内容等を吟味して原因を見つけ出すとともにそれに対する方策を考えていく。	・あがとく祭等を通じて児童生徒の活動状況が把握できる。 ・保護者、関係機関との共通理解がとても深まっている。	外部アンケートの数値面における目標が到達していなかったため、改善していく。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	小中学校等からの要請により、個別の事例についての助言者や校内研修の講師を年間80回程度務めている。	地域支援部	相談記録の手交・心理検査報告等を通じた継続支援を行う。専門アドバイザーの活用方法を、通信やホームページで地域に周知する。	83.3%	/	B	依頼件数は多く、地域のニーズに対応できている。地域や依頼内容にやや隔たりが見られる(特定の地域からの依頼が少ない・検査依頼に内容が偏りがち)。	・実践できている。 ・援助・支援する職員の姿が数多く見られている。	啓蒙活動をととして地域の依頼数の格差や依頼内容の偏りに対応する。
		吾妻地域の小中学校教職員等が参加することができる講演会を、年1回以上実施する。	研修部	吾妻地域の教職員が参加しやすくするため、校内研修の講演会の様子をキャプチャーボードとビデオカメラで録画し、公開期間を決めてオンデマンド配信する。	100.0%	/	A	群馬県特別支援教育研究会知的障害教育部会夏季研修会の撮影及び配信を、本校主幹で行った。音声録画に課題があったが、字幕を付けることでフォローした。	/	今後も①キャプチャーボードとビデオカメラで録画②編集ソフトで映像を合体③Youtubeで限定配信という3つの業務を連携、引き継いでいく。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	「個別の教育支援計画」及び「個別の教育指導計画」に関して、作成における内容や業務してのやりやすさについて80%以上の職員が「適切である」と感じている。	教務部	計画立案の際に説明を明確に行ったり、作成しやすいうな体制をより充実させたりする。	100.0%	100.0%	A	自己評価及び外部アンケートともに目標の数値を達成することができた。	・個に応じた指導が実践されている。	具体的な数値項目については、達成している状況がみられるため視点を変える等の対応をしていきたい。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	学校評価アンケートⅢの問いに対して、96%以上の職員が「達成できた」と回答する	研修部	いろいろな視点から意見が出るよう学部縦割りの班で編成した授業改善会議をのべ15回行う。その際、ICT機器を活用して、時間短縮を図る。	88.9%	/	B	Ⅲの項目全体の平均は、自己評価が94.45%となった。特にⅢ-5の自己評価が低かった。	・実践されている。	研修の方法については、会議や研修がリモートに置き換わっていくことは明らかであり、その中で問題なく出席したり、意見を出したりできる術を身につけておく必要がある。他方、不慣れな職員が慣れていきつつ、すでに身についた職員が発展できるように、少しずつ変更や追加を行う。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症の校内における感染拡大を防ぐ。	保健安全部	①校内の感染症対策を見直し、現状に合った対策を実施する。 ②保護者に対して家庭における感染対策を依頼し、情報交換を密に行う。	100.0%	100.0%	A	自己評価及び外部アンケートともに目標の数値を達成することができた。	・実践されている。 ・健康に十分に配慮する場面が数多く見られる。	今後も継続して完成症対策を実施していく。
		学校における医療的ケアについて、すべての職員が理解を深め、共通した理解の基、対応にあたる。	保健安全部	①学校における医療的ケアについて校内研修を行う。 ②該当する児童生徒の健康状態について適宜情報の共有を行う。	100.0%	/	A	医療的ケア研修、情報共有、共に適切に行うことができた。	/	今後も継続して、対象学部だけでなく学校全体で医療的ケアに関する理解を深めていけるような研修、情報共有を実施していく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	学校の危機管理マニュアルの見直しを行い、内容に合わせた訓練等を行う。(避難訓練3回・緊急時対応訓練2回)	保健安全部	避難訓練等の話し合いを行いながら、危機管理マニュアルの内容の検証や修正を行う。	94.4%	/	A	学校安全巡回点検を機に、危機感マニュアルの改訂を行うことができた。避難訓練も適切に実施できた。	・研修会や危機管理マニュアルが実践されている。 ・できているように思う。	避難訓練に関しては、来年度は隣接する中之条小学校と合同で実施する機会を作っていく。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	将来を見通すとともに発達段階に応じた進路指導を行うために、学部間での情報交換を年3回以上実施している。	進路指導部	進路指導部会で、各児童生徒の将来像を見据えた進路指導に関する情報共有を行い、各学部に還元する。	94.5%	/	A	「挨拶」「手伝い」に焦点を当て、どの発達段階か今後どうすればいいか等の情報交換を行い、学部に還元することができた。	・アビリンピックで優秀な成績を上げている。 ・行われているように思う。	高等部卒業後の進路先について、職員が理解を深められるようにしていきたい。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	1年生進路ガイダンス(地域支援NW相談会の機能に代わるもの)を年3回実施する。	進路指導部	進路行事に、本校だけではなく、吾妻郡内の特別支援学級児童生徒の保護者等へ対象を広げ、情報提供を行う。	94.4%	96.0%	A	ニーズに応じた進路行事を遂行することができた。	・ニーズに応じた進路指導が実践されている。 ・進路指導が積極的に行われているように思う。	特別支援学校高等部卒業後の生活についての講話や障害福祉サービスについての講演会を引き続き企画する上で講師選定を慎重に進めていく。